

交流活動を活用した 里親普及啓発プロジェクト

【教員】

人間文化学部保育教育学科 藤原映久

【学生】

人間文化学部保育教育学科4年 木村里穂

人間文化学部保育教育学科4年 安部成葉

人間文化学部保育教育学科4年 大津春菜

人間文化学部保育教育学科4年 平木香帆

里親制度とは？

- 要保護児童（保護者のない児童又は保護者に監護させることが不適當であると認められる児童：児童福祉法第6条の3第8項）の養育を里親に委託する制度であり、里親は以下の4種類に分類される。

養育里親

要保護児童を保護者による養育が可能になるまでの間、もしくは18歳まで（20歳まで延長可）養育する里親

専門里親

養育里親が専門里親になるには、児童の養育経験や研修の受講などの要件を満たす必要あり

養育里親のうち、虐待により心身にダメージを受けた児童、非行やそのおそれのある児童、障がいのある児童といった、特に養育に支援を必要とする児童を養育する里親

養子縁組里親

保護者が育てあげることが難しい子どもを、養子縁組により、養親として養育することを希望する里親であり、里親としての期間は養子縁組が完了するまで。

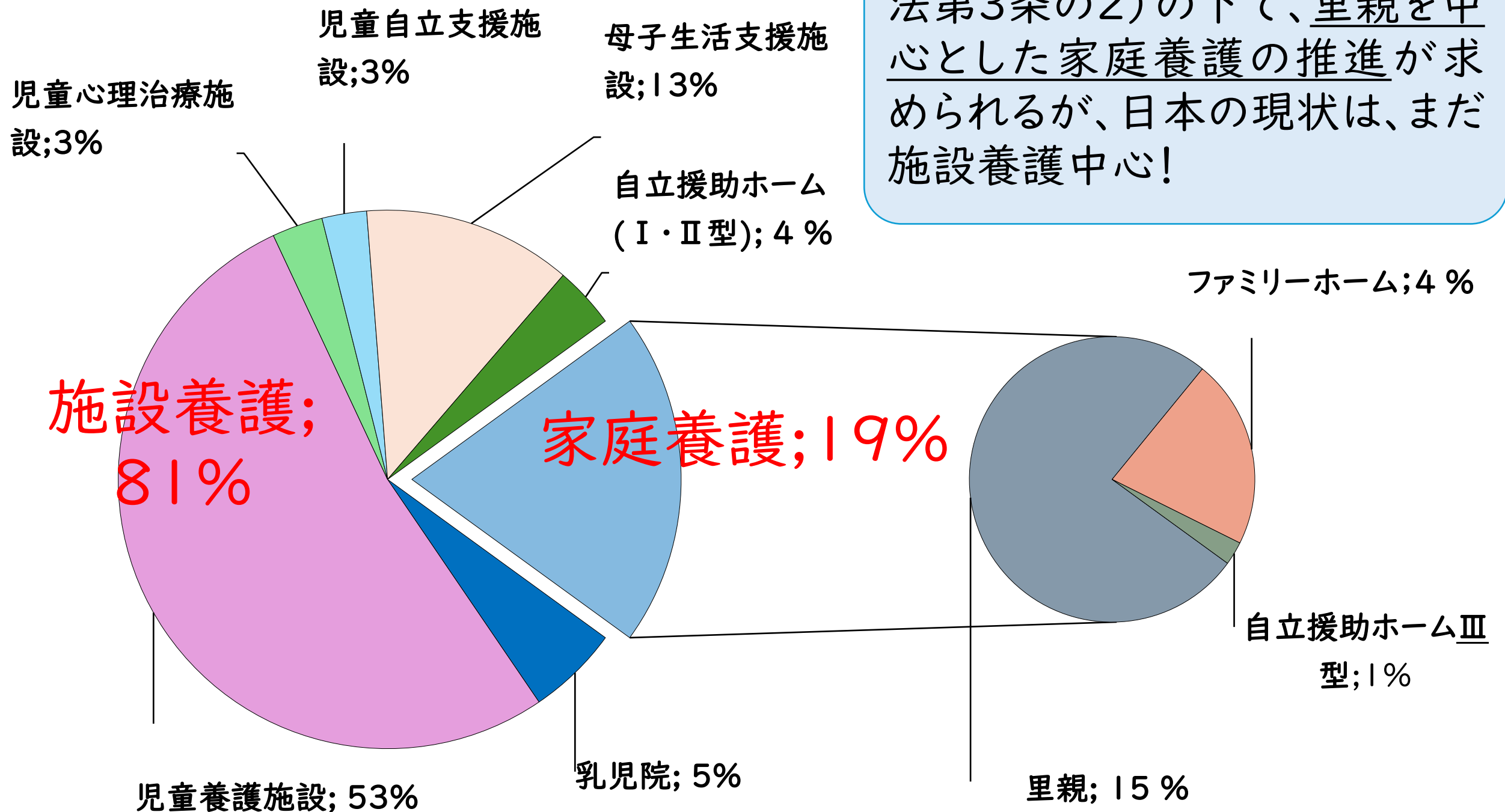
親族里親

両親など子どもの養育を行っていた大人が死亡するなどして、その子どもを養育する大人がいなくなった際、その子どもの扶養義務者とその配偶者がなる里親

日本の社会的養護の現状 (R5年度)

対象児童：約4万2千人 (障がい児施設と養子縁組を除く)

家庭養育優先原則（児童福祉法第3条の2）の下で、里親を中心とした家庭養護の推進が求められるが、日本の現状は、まだ施設養護中心！



本プロジェクトの目的

目的

里親制度が普及しないのは、体験的に理解されていないからでは？

「大学生と里親・里子の交流イベント」等を通じて、大学生が里親・里子に出会う機会を創出するとともに、大学生と里親・里子が協働して里親の普及啓発に寄与する！

若い世代が里親・里子を体験的に理解する場を作ってはどうか？





里親支援学生企画交流会

活動の概要

1. 日時

➤ 2025年7月21日(月) 9:00~13:00

2. 場所

➤ 島根県立大学松江キャンパス カメリアホールとその周辺

3. 連携した学外組織

➤ 松江赤十字乳児院 里親家庭サポートセンター てのひら

4. 参加者

大人7名、子ども5名

➤ 里親・養親とその家族、里親制度に関心のある方12名 + 学生8名

1. 活動内容

- ① ピザ作り1 生地作り
- ② ペナントバナー作り
- ③ ピザ作り2 トッピング
& 窯入れ
- ④ 会食



ダンボールピザ窯でピザを作って食べよう!



窯は8台



- 強力粉 (110g)
- 砂糖 (6g)
- 塩 2g程度
- ドライイースト 3g
- 水 65cc
- バター 10g程度



1. よく混ぜて、十分に練ったら30～40分発酵
2. 円形に伸ばしてトッピング
3. ダンボール窯で焼く!

美味しいピザの完成！



みんなで作ろう!ペナントバナー



ピザを発酵させている間に
急いで作りました!



ペナントバナーに思いを込めた4つのテーマ

①親子

- 大きな動物と小さな動物で親子を表現
- 大きな動物と小さな動物の種類が違ふことで、里親—里子や養親—養子といった血縁関係によらない親子関係を表現

②多様性

- 様々な種類の動物を使うことで、里親家庭や養子縁組家庭を含む多様な親子のあり方を表現

③ つながり

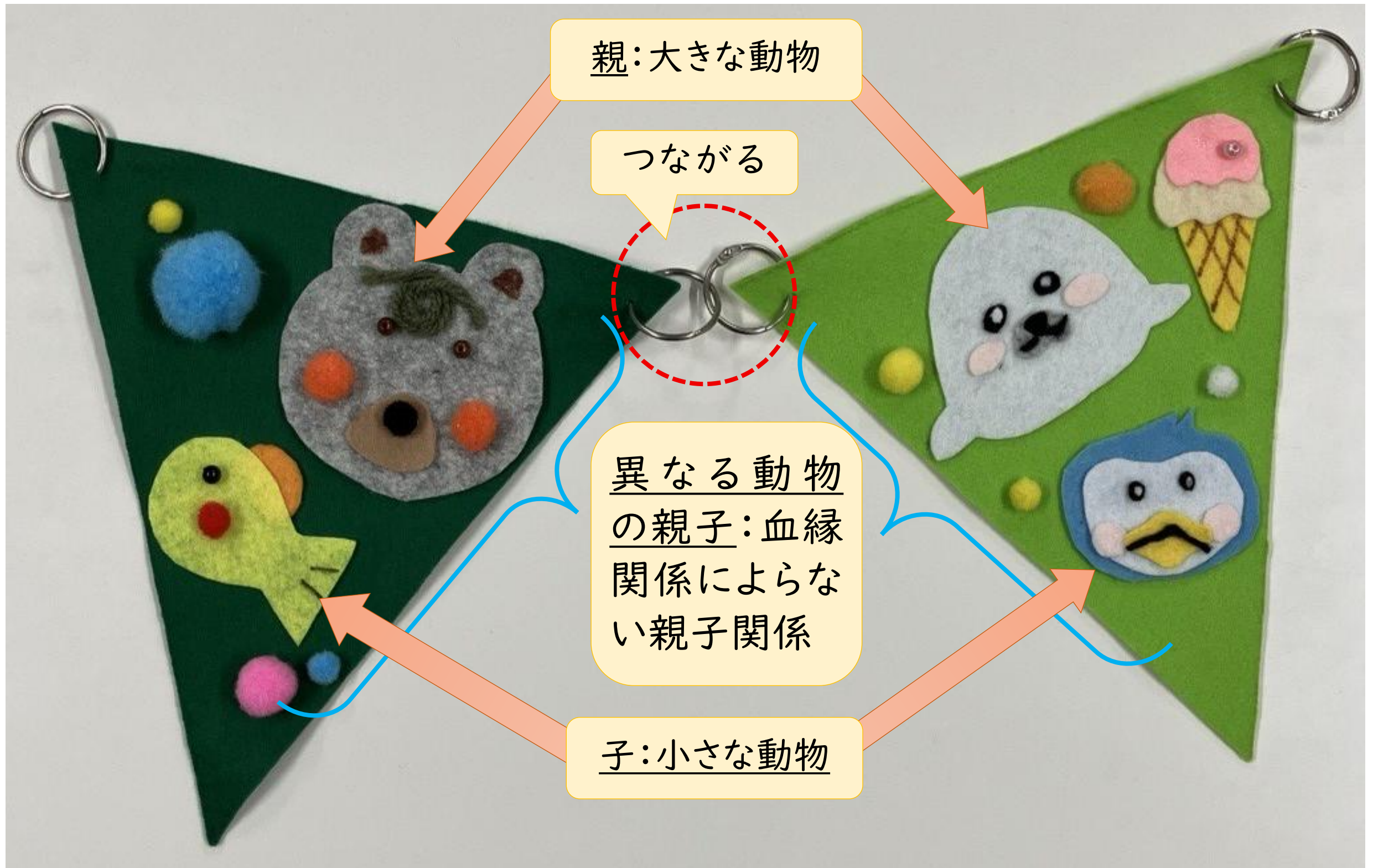
- 一つ一つのペナントをつなげてバナー（横断幕）にすることで、以下を表現

多様な親子から構成される社会
多様な親子同士の支え合い

④ 喜び

- 多様な親子がつながることので得られる喜びを表現
- 多様な親子を受け入れることができる社会は、誰もが喜びを感じることができる社会であることも表現

ペナントバナーに思いを込めた4つのテーマ



みんなのペナントが つながり ました！



完成したペナント
バナーは、「てのひ
ら」が行う里親普
及啓発活動で活
用！

てのひら によるペナントバナーの活用

9月：安来市立図書館



里親普及啓発パネル展示

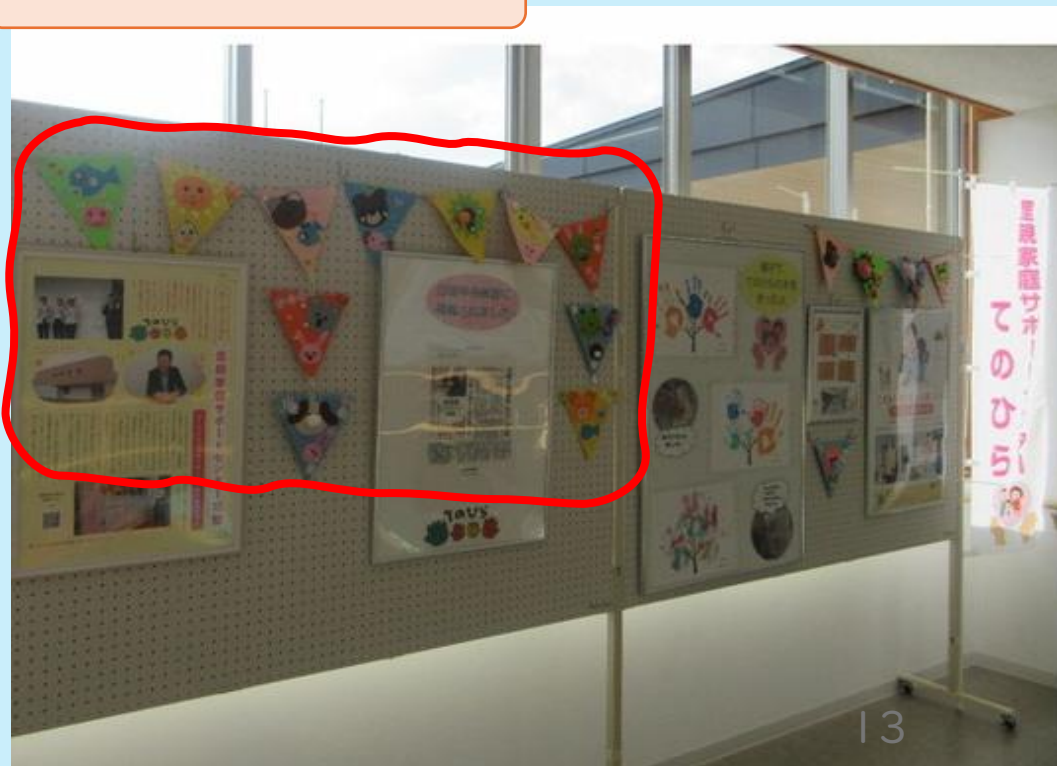
10月：松江市城東公民館



10月：島根県民会館



12月：東出雲公民館



里親支援学生企画交流会の満足度と有効性

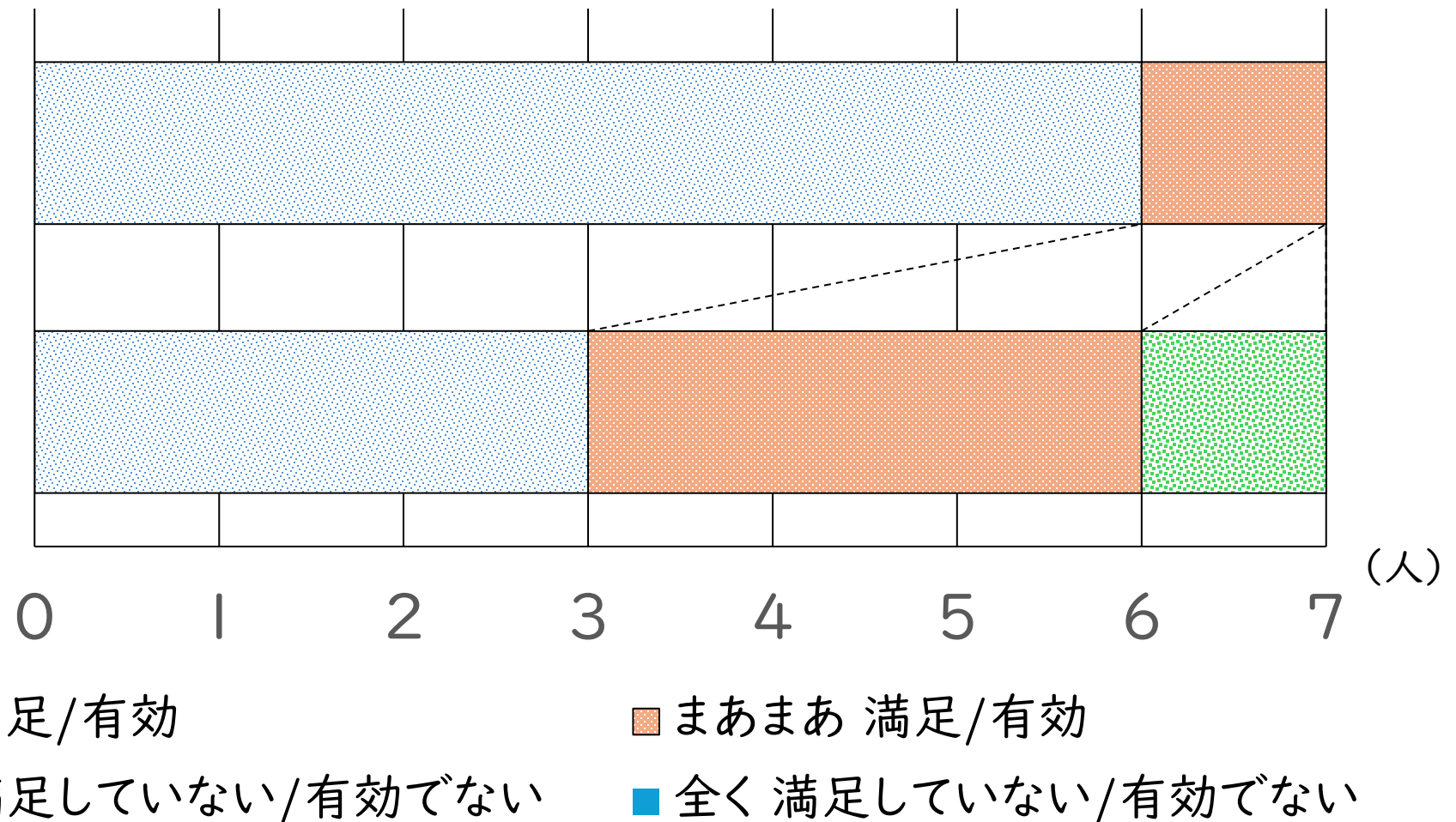
－学生以外の大人へのアンケート結果より－

交流会全体
の満足度

満足度

交流会が、学
生に里親・里
子や里親制
度を知って
もらう手段
として有効
であったか？

有効性



満足度と有効性にズレ

活動としては満足ゆくものであった一方、里親制度の普及啓発としては、改善の余地あり！

今後の活動

満足ゆく関わりの中で、里親・里子、里親制度の実態が実感できる活動の工夫が必要！